

授業だより

No. 2

押水第一小学校

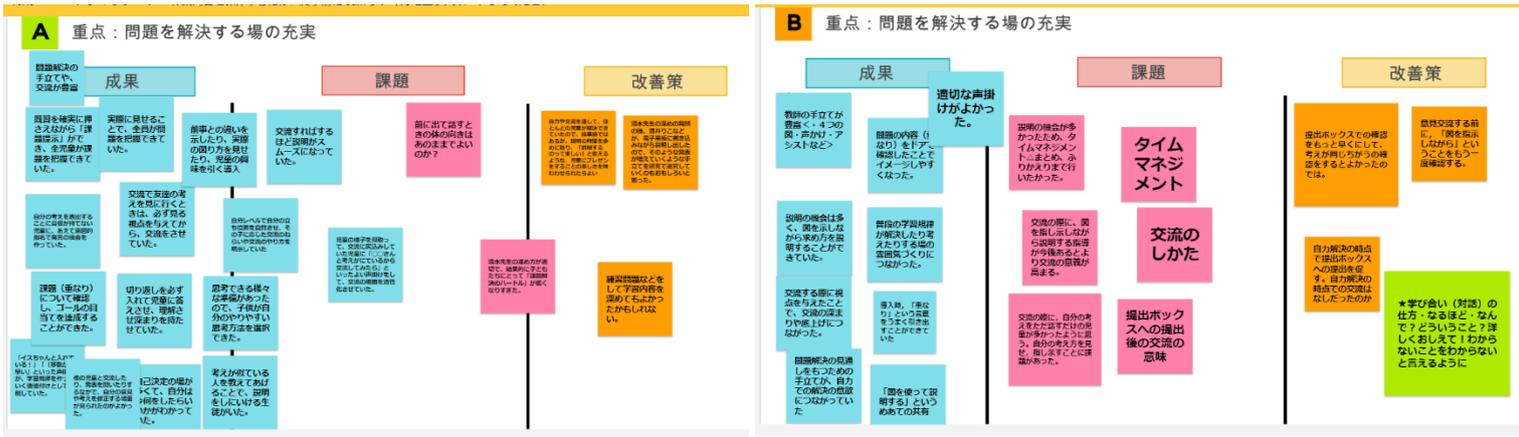
令和6年 6月 12日

3年研究授業 算数「考える力をのぼそう」 (授業者 清水)

6月12日(水)に3年算数「考える力をのぼそう」の研究授業を行いました。授業後には、授業整理会、中能登教育事務所の中山指導主事からの指導助言がありました。

【授業整理会～各グループの話合いより～】

視点1:問題を解決する場における教師のアシストは有効であったか。



【指導助言～中山指導主事より～】

資質・能力の定着のために

- 複数の図（1mものさしの図、テープ図、線分図2種類）が提示されていたが、本時のねらいでは、線分図を使うところまで高めていく必要があった。線分図を使っていない児童には、線分図でもやってみることを促したり、線分図を使っている児童とつなげたりしていくアシストが必要だった。

対話を通して問題解決するために

- 協働学習では、児童が個にもどって考えを深めていくようにする必要があり、ねらいに到達するまで、声掛けやアシストすることが大切。児童の交流が一方通行になっているため、「なんでこうしたの?」「わからないから教えて」などと、とことん対話をして学びを深めていける児童を目指してほしい。違う考えに出会ったら、「なんで?」を大切にしてい
- 個に戻って考えていたり、自分の疑問を素直に表現したりして学びをしている児童を認め、価値づけていくことが大切。友達の説明を聞いて、付け加えたりしている児童を見つけたら、その様子を広めて認めていくべき。
- 友達との対話の中から問題も出てくる。対話を通して、問題を解決できるような具体策をもって取り組んでほしい。
- 対話の質のみとりにを行い、対話で児童の力で深い学びに到達できるよう力をつけていってほしい。共通点や相違点を探すことで、整理・分析することができる。3年生には、「考え方は、何通りあるの?」や「どこが違うの?」等といった具体的な声掛けで、児童で問題解決をすることも可能になる。